

ただ、その人間がつくり出した合理性の塊が人工知能だとすれば、これは人間の不合理性とは補完的に働き、強力なパートナーシップを築くことも可能性としては十分にあり得ます。

意味的に、「これは～働き、」と並列されているのは、「強力な～築く」です。「働き、」と「築く」の両方が **and** で結ばれ、**A.**「ことも可能性としては十分にあり得ます。」につながるという解釈をします。そうすると **B.**「その人間が～人工知能だとすれば、」を大きな修飾語としてとらえられます。「ただ、」は、**however,** で処理することにします。その前まで人工知能を否定的な文脈でとらえており、それが一変、「ただ、」以降、否定的とは言えない流れが続いていたので、そう判断しました。

A. (S) (V) することも可能性としては十分にあり得ます。

述語は、「あり得ます」のあたりをヒントに作ることにしました。can や likely が使えると考えた時に、「可能性としては十分にあり得ます」の部分まで、一括して【可能性が高い】を表せる likely で表現できると発想することができました。

- It is likely that (S)(V) 「(S)(V)する可能性が高い」
を利用します。

(1) It is likely that (S)(V)

B. これは人間の不合理性とは補完的に働き、強力なパートナーシップを築く

(1)の(S)(V)の部分には「これは～働き、」と「強力な～築く」の、2つの文が入っているので、それぞれを英語にしていきます。

(a) これは人間の不合理性とは補完的に働き、

まずは述語から。「働き」の部分は **work** で行けそうなのですが、「補完的に」が浮かびそうにありません。ここでイメージをしっかり浮かべてみました。そうすると「働き、」も合わせた、【不足を付け加える】感じが浮かんできました。

▪ S make up for A 「SはAを補う」

ですね。【補う主体】である S には「AI」が、【補われる対象】である A には「人間の不合理性」に当たるもの、英語にするとそれぞれ AI と **their rationality** が入ります。それに伴い、**make** は **makes** になります。

(2) AI makes up for their rationality

(b) 強力なパートナーシップを築く

これも述語から。「築く」とありますが、実際には建物を築いているわけではありません。**build** が使えるか不安です。ですが、**S build a relationship with A** という表現を知っていたので、これを利用して、

▪ S build a partnership with A 「SはAとパートナーシップを築く」

がいけると想像し、思い切ってこれを使うことにしました。

(3) **S build a partnership with A**

【作り上げている主体】は、ここでは **human beings** でも **AI** でもどちらでも取れると思いますが、(2)での **S** が **AI** なので、それに合わせて並べるほうが理解しやすいと思い、ここでも **AI** を **S** にすることにしました。それに従い、**build** を **builds** にします。また【パートナーになる相手】である **A** には「人間」が入るので、**human beings** でもいいですし、すでに言及されているので **them** でもいいと思います。

最後に「強力な」が残りました。**partnership** とのコロケーションに、自信がなかったのですが、**strong** しか思いつかなかったのもので、それをそのまま置きました。(そして正解でした！)

(4) **AI builds a strong partnership with them**

(c) (a) + (b)

そのまま , **and** でつなぐことにします。

(5) **AI makes up for their rationality, and AI builds a strong partnership with them**

AI が 2 つ並んでいるので、2 番目を **it** にしてもいいと思いますが、**and** で結ばれているので 2 番目の **AI** を消すことを選びました。また、「補完的に働き、築く」のは【これから】なので **will** を用います。それに応じて、**makes**、**builds** を **make**、**build** にしています。

- (6) **AI will make up for their rationality and build a strong partnership with them**

C. その人間がつくり出した合理性の塊が人工知能だとすれば、

この部分は、全体として修飾表現になっています。修飾表現はつながりに語句から取り組むと便利です。つながりの表現は基本末尾にあるので、その着眼点で、後ろの方から砕いていきたいと思います。

(a) 塊が人工知能だとすれば、

a. (S) (V) すれば、

末尾に着目して、「ば」があるので、

- if (S)(V) 「(S)(V)すれば」

を使うことにしました。

(7) if (S)(V)

b. 塊が人工知能だ

(S)(V)に当たる「その人間が～人工知能だ」を訳出します。

ここの核となる日本語は「塊が人工知能だ」です。単純には、

- S is AI 「S は AI だ」

から組み立てるだけでよさそうですが、違和感も感じました。S is AI とくれば、S の説明をしている感じがしますが、この日本語は、S の説明ではなく、人工知能の説明をしている感じがします。なので、

- AI is A 「AI は A だ」

を使うことにしました。これは相当難しい発想だと思います。

(8) AI is A

次は「塊」です。ぱっと英語にはしづらい表現です。イメージもしてみたものの、【**何か**が**ぎっしり詰まったもの**】を英語にはなかなかできそうにありませんでした。ここは諦めます。【**もの**】の部分だけは表そうと思い、**something** を使おうと思いました。

(9) AI is something

c. a. + b.

if (S)(V)の(S)(V)に(9)を入れます。

(10) if AI is something

(b) **その人間がつくり出した**

「その人間がつくり出した」は、「塊」を修飾しています。これをヒントに、この部分を**関係詞(S)(V)**で表そうと思います。述語は、「つくり出した」から、

▪ S produce A 「S は A をつくり出す」

が使えると思いました。【**今までにつくり出して今もある**】わけですから、現在完了形を使います。

(11) S have produced A

【**つくりだした主体**】を表す S には、「その人間」が入りそうですが、この「その」は、【**ほかの人間と区別している**】のではなく、【**直前にふれている**】ということをかすかに示すだけの「その」です。難しい判断かもしれませんが、表に出さないことにしました。そして、【**作られる対象**】である A は「塊」です。先行詞と同じなので、この部分を **which** にして、カタマリの前に表現します。

(12) which human beings have produced

(c) 合理性の

単純には、

- rational 「合理的な」

を **something** に修飾させることが考えられます。ところが、ここで、1度訳出してみて、「AI って、合理的なものか？」と、ふと考えてしまいました。なので、一度イメージをしっかりと浮かべてみることにしました。

「合理性の」だけではなかなか浮かばなかったので、「その人間がつくりだした合理性の塊」という単位で浮かべてみると、【**合理的にいろいろ、むむう~となって、出来上がった塊**】が出てきました。これを自分の知っている英語で表してみます。【**出来上がった塊**】の部分は **something human beings have produced** で十分表せているので、残りの【**合理的にいろいろ、むむう~となって**】の部分に取り組みます。

修飾語なので、まずはつなぎ方から。「なって」あたりを見ると、イメージ的には「ん～ってなること」を【**使っている**】感じがします。これ、**発達させること**でやった発想と同じですね。

▪ **by DOING 「DOING することによって」**

が使えると判断しました。

(13) **by DOING**

「ん～ってなる」は、ただ【**うなっている**】のではなく、【**あれこれと頭の中でいろいろ浮かべたりしている感じ**】です。簡単な英語で切り取ると、**think** ですね。これを使って、

▪ **by thinking 「考えることによって」**

にします。あとは「合理的に」の部分が必要ですね。**rationally** を最後につけて出来上がりです。

(14) **by thinking rationally**

これは本当に難しい発想だったかもしれません。僕らも悩んでこの表現をひねり出しているの、お分かりになられたでしょうか？

(d) (a) + (b) + (c)

関係詞節である(12)を、その先行詞の **something** の後ろに置きます。

(15) **if AI is something which human beings have produced**

最後に(14)を(15)の後ろに置きます。

(16) if AI is something which human beings have produced by thinking rationally

C. A. + B. + C.

この(16)は(6) **AI will make up for their rationality and build a strong partnership with them** の前に置いても後ろに置いてもいいのですが、今回は前に置いて、カンマを挟みます。

(17) **if AI is something which human beings have produced by thinking rationally, it is likely that AI will make up for their rationality and build a strong partnership with them**

AI が二つあるので、二個目のほうを **it** にし、方針通りに、**however,** をつけると、次のようになります。

(18) **However, if AI is something which human beings have produced by thinking rationally, it is likely that it will make up for their rationality and build a strong partnership with them.**

Model Answer

However, if AI is something which human beings have produced by thinking rationally, it is likely that it will make up for their irrationality and build a strong partnership with them.